

眼のコラム第2回は飛蚊症(ひぶんしょう)についてのお話です。

### 飛蚊症とは

明るい所や白い壁、青空などを見つめた時、目の前に虫・糸くず状等の「浮遊物」が飛んでいるように見えることがあります。

視線を動かしてもなお一緒に移動してくるよう感じられ、まばたきや目をこすっても消えませんが、暗い所では気にならなくなります。

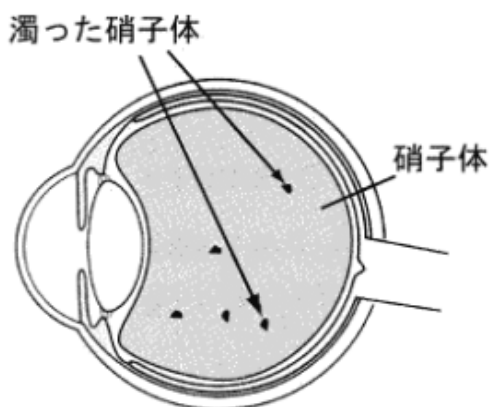
### 飛蚊症が見える原因

眼の中の大部分は、硝子体と呼ばれるゼリー状の透明な物質がつまっています。

角膜、水晶体を通して外から入ってきた光は、この硝子体を通過して網膜まで達します。

ところが、硝子体が老化やストレスなど何らかの原因で「濁り」が生じると、明るいところを見た時にその濁りの影が網膜に映り、眼球の動きとともに揺れ動き、あたかも虫・糸くず状等の「浮遊物」が飛んでいるように見え、飛蚊症として自覚されます。

この「濁り」には、生理的な原因によるものと病的な原因によるものがあります。



生理的飛蚊症

### 生理的飛蚊症

年齢を重ねると硝子体はゼリー状から液状に変化したり、次第に収縮したりなど、網膜との間に隙間が増えて剥がれやすくなっていきます(硝子体剥離)。

このような変化は髪が白髪になることと同じようなもので、生理的な現象です。

また、年齢に関わらず近視が強い場合は硝子体剥離が早期に起こりやすく、しばしば飛蚊症の訴えがあります。このタイプの飛蚊症と診断された場合は治療の必要はなく、多少うっとおしさは感じますが、慣れれば特に問題ありません。

### 眼病が原因の飛蚊症

硝子体剥離やその他の原因で網膜に穴が開いたり(網膜裂孔)、その穴を中心に網膜が下の層から剥がれて硝子体の方へ浮き出す(網膜剥離)ことがあります。

このような現象が起こると、初期症状として目の前を飛ぶ「浮遊物」の数が急増し、放っておくと失明の恐れがあります。

この他にも、眼底出血やぶどう膜炎などでも飛蚊症が起こり、様々な原因が考えられます。

### 診断方法

飛蚊症の診断として視力や眼の精密検査を行います。もっとも重要な検査は「眼底検査」です。「眼底検査」では、検眼鏡を使って瞳孔から眼球奥の網膜の状態を調べます。

眼底検査の結果、生理的飛蚊症と判定されれば経過観察になりますが、網膜裂孔や網膜剥離が認められれば、手術が必要になります。

## 診断方法

飛蚊症の診断として視力や眼の精密検査を行います。もっとも重要な検査は「眼底検査」です。「眼底検査」では、検眼鏡を使って瞳孔から眼球奥の網膜の状態を調べます。眼底検査の結果、生理的飛蚊症と判定されれば経過観察になりますが、網膜裂孔や網膜剥離が認められれば、手術が必要になります。



わずかでも「浮遊物」が現れた際には自己判断をせず、お早めに眼科での眼底検査をおすすめします。  
また「浮遊物」の数が増えたり形が変わったり、視力が落ちるようであれば直ちに眼科にご相談ください。